鶴居・伊藤タンチョウ
サンクチュアリ
Tsurui-Ito Tancho Sanctuary

2020 Annual Report

2020年度活動報告書

表紙写真：長友逸郎

特集 給餌量削減とタンチョウの利用状況

2020年度の概要

来館者数	調査回数	野鳥保護区
2,654人	201回	2,463ha
賛助会員数	給餌日数	最大飛来数
144人	131日	287羽

公益財団法人
日本野鳥の会
Wild Bird Society of Japan

2020年度の主な活動

笑顔で記念撮影「タンチョウの冬の食事場所を作ろう」

4～9月

- ●タンチョウの農業被害対策に協力
- ●冬期自然採食地踏査
- ●「モニタリングサイト1000」鳥類調査を実施
- ●通信紙「ぴっけるぴっけ」発行（年2回）
- ●運営協議会開催
- ●タンチョウ保護増殖事業関係者意見交換会に参加
- ●釧路空港にてタンチョウ保護活動のパネル展開催
- ●「タンチョウの冬の食事場所を作ろう」開催
  （地域の皆さんとの冬期自然採食地整備活動）

給餌場で行動解説をするレンジャー

10～3月

- ●第26回タンチョウイラスト展開催
- ●JALの皆さんと冬期自然採食地整備
- ●標茶高校進路座談会講師・標茶高校自然ガイド授業（全4回）実施
- ●村民向けタンチョウ講座（鶴居村主催）講師（2回）
- ●各種団体ツアー受け入れ
- ●学校対応
- ●タンチョウ餌づくり隊「コーン寄贈式」対応
- ●オンライン探鳥会の実施（当会　普及室主催）

□■□ 表紙写真募集 □■□

本誌次年度の表紙写真を募集します。
応募者本人が撮影した、未発表のタンチョウの写真のプリントもしくはデータをお送りください。

※繁殖行動などに影響を与える（与えた）と思われる作品は採用いたしません
※返却をご希望の方は返却先を記入して返信用封筒に切手を貼って同封してください
※絵でも可、要問合せ

住所・氏名（ふりがな）・連絡先を明記の上、下記連絡先まで
・プリントの場合2Lサイズ程度
・データの場合解像度350dpi以上

しめきり 2022年3月31日

表紙：長友逸郎

左から:櫻井レンジャー 原田チーフレンジャー 田島レンジャー

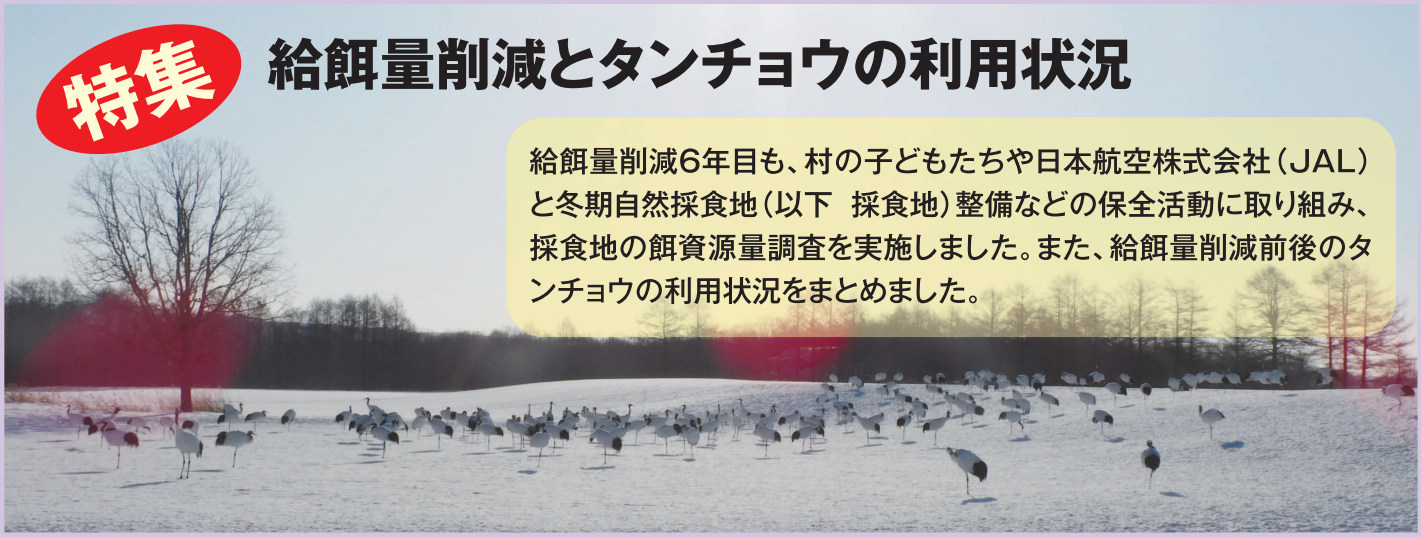
■鶴居・伊藤タンチョウサンクチュアリについて

1987年、日本野鳥の会はタンチョウとその生息域を保護するため、北海道鶴居村にサンクチュアリを作りました。設立には、全国からの寄付と地元で長年タンチョウ保護に貢献された故・伊藤良孝氏のご理解とご協力がありました。
サンクチュアリにはレンジャーが常駐し、冬季は毎日給餌を行なっているほか、皆さまのご支援を元に様々な保護・調査・普及活動を展開しています。タンチョウの観察はもちろん、タンチョウの情報を得たり、オリジナルグッズを購入することもできます。

開館：10月1日～3月31日（火・水休み）※祝日の場合は開館
9：00～16：00　無料
閉館：4月1日～9月30日・12月26日～1月1日

〒085-1205 北海道阿寒郡鶴居村字中雪裡南　TEL 0154-64-2620　FAX 0154-64-2239
tancho_sanc@wbsj.org　URL：https://www.wbsj.org/

タンチョウの最新情報はコチラ



特集 給餌量削減とタンチョウの利用状況

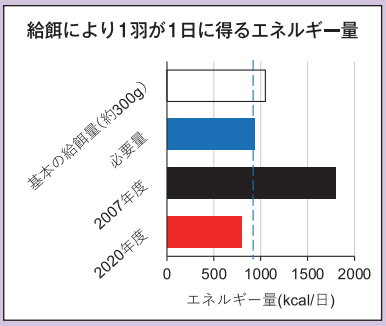
給餌量削減6年目も、村の子どもたちや日本航空株式会社（JAL）と冬期自然採食地（以下　採食地）整備などの保全活動に取り組み、採食地の餌資源量調査を実施しました。また、給餌量削減前後のタンチョウの利用状況をまとめました。

絶滅の危機に瀕していたタンチョウは、長年の給餌により、現在は約1900羽にまで個体数が回復しました。2015年度からは、生息地分散に向けて、国による給餌量削減が行なわれています。

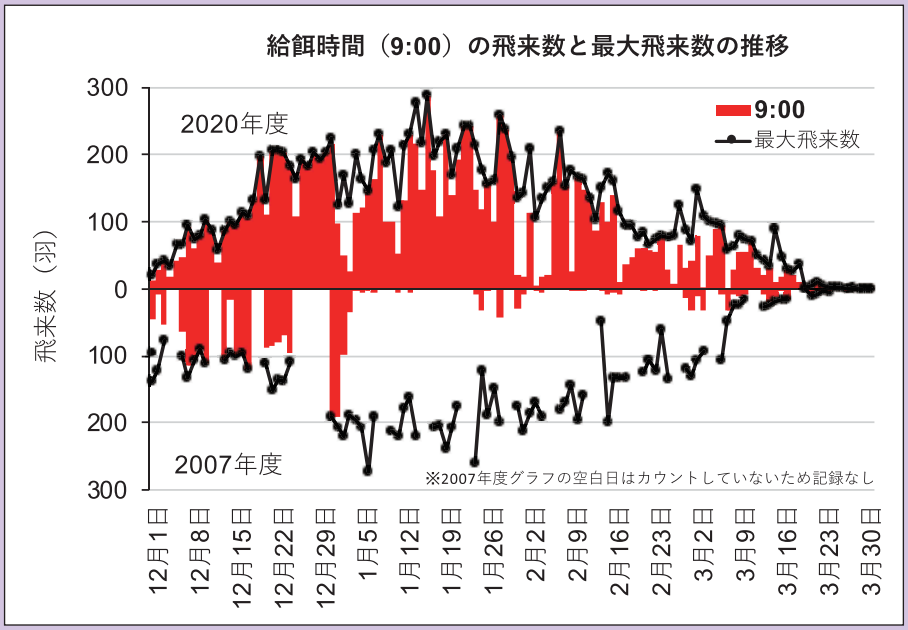
給餌量削減は継続！

1）タンチョウ1羽が必要なエネルギー量を推定

2020年度は、前年度比1割減で給餌量の削減が継続されました。
削減前と比べ、給餌によりタンチョウ1羽当たりが得られるエネルギー量が変化しているのかを推定してみました。
その結果、2007年度はタンチョウの1日に必要なエネルギー（タンチョウの平均体重8.5kgの場合の野外代謝率で算出）より多いデントコーンを撒いていたのに対し、2020年度の給餌量では、必要量を下回り、1羽が1日当たりに必要なエネルギー量は、給餌だけでは足りていないことがわかりました。



そこで、給餌場で毎年行なっているタンチョウカウントのうち、給餌直後の9時の記録を給餌量削減前（2007年度）と比較し、削減前後の給餌場におけるタンチョウの利用状況をまとめました。



給餌量削減前は、午前9時の1日1回の給餌、削減後（2016年度以降）は午前9時と午後2時の1日2回、給餌を行なっています。
2007年度は十分な餌を得られていたためか、9時の飛来数は多くなく、飛来時間は散らばる傾向にありました。一方で、2020年度は9時から飛来数が増え、当日の最大飛来数になることもありました。給餌量削減の影響からか、2020年度は、1日に必要なエネルギーの不足分を求めてタンチョウが9時の給餌に集中し、給餌時間外に採食地や農場敷地などへ餌を求めて移動している可能性が考えられます。

2か所を整備

2）冬期自然採食地づくり

タンチョウが給餌だけに依存しない餌場として重要な採食地。越冬環境保全のモデルとなるよう、当会では整備活動を進めています。
コロナ禍にも関わらず、整備に協力してくれた村の子どもたちやJALの社員ボランティアの皆さんのおかげで、2020年度もタンチョウが利用するのを確認できました。

採食地を利用するタンチョウ

記念撮影（左:村の子どもたち　右:JALの皆さん）

採食地の生物量は？

3）採食地の餌資源量調査

2015年度に実施した生物調査では、採食地の生物相が明らかになりました。2020年度は、給餌量削減が進む中で、採食地にどの程度のタンチョウの餌資源があるのかの目安を得るために、調査を実施しました。

底生生物調査は方形区を設け、
魚類調査はタモ網で生き物を採集した

多く採集されたサクラマス（左）とトゲオヨコエビ（右）はタンチョウの重要な餌になると考えられる

調査を行なった採食地で、一定面積当たりの餌資源量を推定したところ、いずれの採食地も、タンチョウ1羽が1日に必要なエネルギーとしては、給餌に比べて微量になりました。整備した採食地をタンチョウが利用し続けていることで、餌量が減っている可能性も考えられます。

直面する新たな問題

4）タンチョウの農場敷地内侵入

給餌量削減後、給餌場だけでなくサンクチュアリ周辺においても、タンチョウの動きに変化が見られています。農場敷地内の牛の発酵飼料を作る場所では、餌となるデントコーンを食べるタンチョウの確認数が増えました。発酵が進むように被せたシートは、タンチョウに穴をあけられると空気が入り、中の飼料は腐敗し使用できなくなります。
この農業被害防止のため、タンチョウ保護関係者と協力し、侵入したタンチョウを追い払いました。1か所に最大118羽と、多数のタンチョウが侵入している日もありました。
状況の改善に向けて、今後も関係者と連携して対応していきます。

シートに穴をあけ、デントコーンを食べるタンチョウ
写真提供:鶴居村教育委員会

給餌量削減により深刻化してきたタンチョウの農業被害と、タンチョウの自然の餌場となる採食地の存在は、密接な関係にあります。今回の餌資源量調査で、採食地の新たな課題も見えてきました。
今後は整備した採食地の生物量を増やすためのエコアップ活動なども視野に、越冬環境の保全に取り組んでいきます。

2020

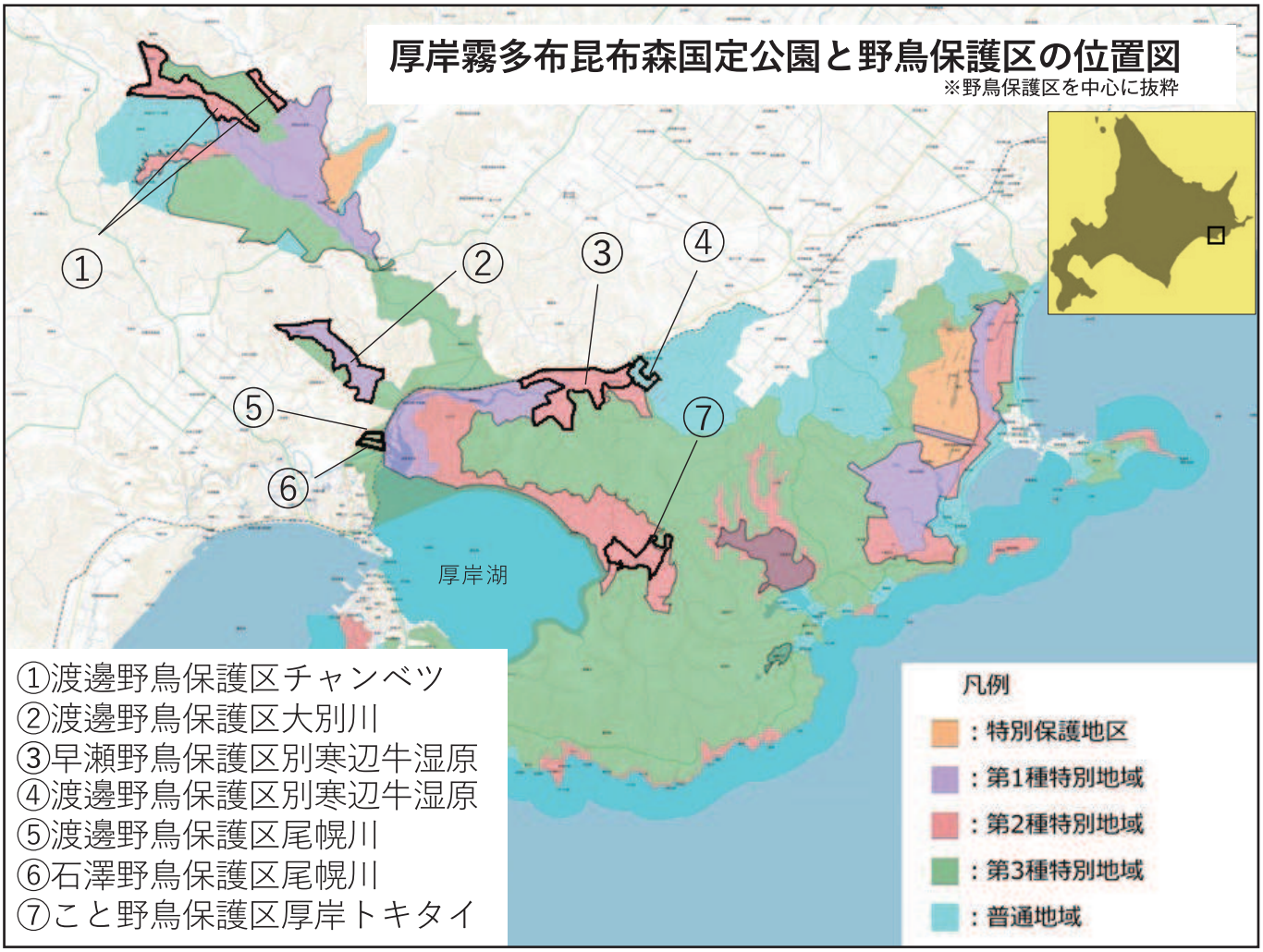
守る

生息地を守る活動

私たちが設置した野鳥保護区が、国定公園の区域に含まれることになりました。
また、行政が主催する関連会議に積極的に関わり、運営にも寄与しています。
新規生息地では、繁殖個体が増えました。地域主体の保護活動への協力は、さらに経験を重ねながら、新たな地域への対応に向けて準備中です。

7つの野鳥保護区が国定公園の区域に指定

2021年3月に誕生した「厚岸霧多布昆布森（あっけしきりたっぷこんぶもり）国定公園」（厚岸町、浜中町、釧路町、標茶町：面積41,487ha）では、当会がタンチョウの生息地に設置した7つの野鳥保護区、計969.5haが区域内に指定されました（図参照）。区域内にある野鳥保護区には、合計11つがいのタンチョウが生息しています。



当会独自の野鳥保護区は、もともと法律の保護指定がないタンチョウの生息環境を、開発から守るために設置してきた場所です。今回の区域指定は、タンチョウの生息する湿原の価値があらためて行政に認められたものと、嬉しく感じています。また標茶町チャンベツ（①）では、別寒辺牛湿原の上流部への指定拡大に当会の保護区の存在が貢献できたのではないかと考えています。
指定区域を含め、引き続き巡回監視などで保護区のタンチョウの生息環境の保全に努めていきます。

厚岸湖上空から、こと野鳥保護区厚岸トキタイを望む
写真提供:厚岸水鳥観察館

日本野鳥の会のタンチョウ保護活動について

私たちは、法律で守られていないタンチョウの繁殖地を、土地の購入や所有者と協定を結ぶことで「野鳥保護区」として保全しています。現在、タンチョウのための野鳥保護区は22か所、30つがいのタンチョウがこの保護区を利用しています。また、近年広がりつつある新たな生息地の保全も視野に入れ、活動しています。

重要な越冬地である鶴居村には保護活動の拠点を置き、シーズン中には毎日給餌を行ない冬期の餌不足を補っています。同時に、給餌に頼らないくらしのための環境づくりにも取り組んでいます。

道央圏でタンチョウ繁殖地拡大

2012年以降、道央圏でのタンチョウの繁殖は、むかわ町のみでした。2020年度は長沼町（舞鶴遊水地）と苫小牧市（ウトナイ湖）で繁殖し、さらに10月に千歳市内で318の標識個体が2羽の幼鳥連れで確認されました。318は2017年生まれで、むかわ育ちの個体です。一気に4つがいが繁殖した道央圏は、自然分散の最西端部として注目されています。私たちは今後も地域の方と連携し、新規生息地拡大と定着に努めていきます。

道央圏でタンチョウが確認された地域

2羽の子連れで現れた318
写真提供:深沢博（むかわタンチョウ見守り隊）

環境省主催の保護増殖検討会ワーキンググループに参加

環境省主催のタンチョウ保護増殖事業検討会で、「タンチョウ生息地分散行動計画」（2014年策定）の評価ワーキンググループ（WG）の委員に委嘱され、会議に出席しました。WGでは給餌量削減前後のサンクチュアリ給餌場への飛来状況の変化などについて、日々の調査で蓄積されたデータに基づき意見を述べました。この他、給餌量削減に関する意見交換会、保護増殖事業検討会に出席し、給餌量削減や道央圏への分散について意見を述べました。今後の給餌量削減は、周辺農場への集団侵入防止対策と一体で行なわれる必要があります（3P参照）。引き続き現地でのタンチョウの動きを注視し、会議などで発信するとともに、現場での活動に活かしていきます。

給餌量削減に関する意見交換会の様子

3年目を迎えた鶴居村タンチョウ共生会議

タンチョウと地域が共生する“鶴居モデル”を目指す「鶴居村タンチョウと共生するむらづくり推進会議」の運営部会、「農業との共生」小委員会及び「保護のあり方」小委員会に出席し、今後の3か年活動計画の策定などに寄与しました。また、小委員会での話し合いを契機に始まった、村主催の「村民向けタンチョウ講座」の講師として、タンチョウの野外観察でのガイドや、室内で当会のタンチョウ保護活動について紹介しました。

畑での解説風景

室内での活動紹介の様子

2020

伝える

保護の輪を広げる活動

感染症対策を行ないながらの普及活動が課題となった2020年度。ネイチャーセンターでは、ソーシャルディスタンスを保ちながらタンチョウの魅力を伝えるために、ビデスコを導入しました。また、オンラインツールを使うことで、新たな普及活動の形が見えてきました。

第26回タンチョウイラスト展　応募作品

もっと伝えたいタンチョウのこと モニターに映してタンチョウ観察

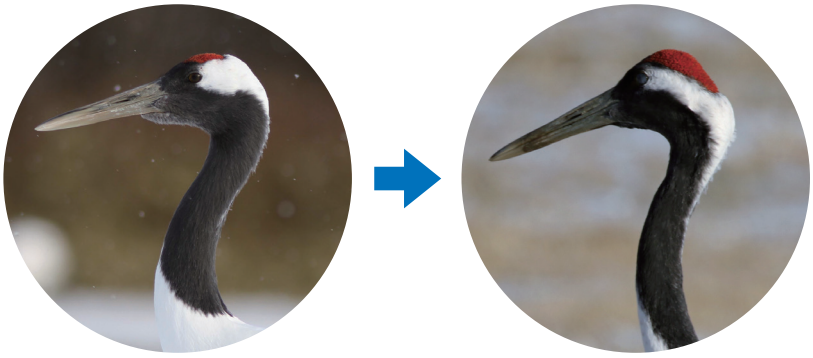
ネイチャーセンターの窓から望遠鏡や双眼鏡で給餌場を見ると、まるで目の前にタンチョウがいるような臨場感です。レンジャーの解説を聞きながらのタンチョウ観察は、来館者に好評でした。コロナ禍でも安心安全にタンチョウの魅力を伝えようと、今まで来館者が自由に使用できた望遠鏡や双眼鏡の代わりに、望遠鏡に取り付けたビデオカメラの映像をリアルタイムでテレビモニターに映し出せる、ビデオスコープ（ビデスコ）を窓際に設置しました。

ビデスコ本体
興和オプトロニクス㈱にご協力いただき実現しました

同じタンチョウを見ながら、家族やグループで一緒に解説を聞くことができます。瞬時に変わるタンチョウの行動も、モニター画面に映し出せば皆で共有できるので、タンチョウ観察がとても楽しくなりました。

今までは、来館者と一緒に双眼鏡や望遠鏡でタンチョウを見ながら行動を解説していました。しかし、同じ行動を共有するのは本当に難しく、結局どのタンチョウを見ていたのか分からないことも度々でした。ビデスコを使って特定のタンチョウをテレビモニターに映し出し一緒に観察できるようになり、より的確にタンチョウの行動について解説できるようになりました。

鳴き合いや求愛ダンスなど、特別な瞬間をモニターに映し出して説明しています。例えば、タンチョウは見た目にはオスとメスの区別はつきませんが、鳴き合いの時には、くちばしの動きでオスメスが分かるので、鳴き合いを映し出し、オスメスの違いを説明しています。行動を見ながら解説を聞いて納得できるビデスコでの観察は、タンチョウへの興味が深まるきっかけとなっています。



タンチョウは興奮すると頭の赤い部分が大きく広がります。モニターの映像をクローズアップすると、赤い部分が広がる瞬間も見ることができます。

タンチョウの求愛ダンスも、解説を聞きながら観察できます。ダンスとケンカの違いが、よく分かります。

もっと知りたい、もっと守りたい！
タンチョウふぁんクラブ

賛助会「タンチョウふぁんクラブ」に入会して、私たちの活動を応援して下さい。年会費1万円は、ご寄付として控除の対象となります。年に2回お送りする通信紙では、最新の活動内容をお知らせしています。

お問い合わせ
（鶴居・伊藤タンチョウサンクチュアリ）
0154-64-2620

【4月～9月】 土・日・祝休み ／ 【10月～3月】 火・水休み

オンラインでも大活躍 レンジャーのお仕事拝見

オンラインで子ども湿地交流

画面上の長沼町の子どもたちと記念撮影

整備活動の動画を配信するレンジャー

レンジャーが実行委員として関わっているKODOMO湿地交流。3年目を迎えた長沼町の子どもたちとの交流は、コロナ禍を踏まえ、12月5日にオンラインでお互いの活動を伝え合いました。
鶴居の子どもたちは、9月27日に実施した「タンチョウの冬の食事場所を作ろう（冬期自然採食地整備）」の様子を動画で発信し、自分たちの活動を伝えました。タンチョウをテーマにした交流会でレンジャーの果たす役割は大きく、また、未来のタンチョウ保護を担う子どもたちとの絆も深まっています。

野鳥の会のオンライン探鳥会

2月12日、当会普及室主催のオンライン探鳥会を開催しました。オンラインでの探鳥会は初めての試みでしたが、多くの方にご応募いただき、抽選で39名の方が参加されました。
レンジャーが給餌場の柵越しにリアルタイムでタンチョウの様子を伝え、参加者からは質問や感想が届きます。オンライン探鳥会でタンチョウに魅了された参加者が、後日タンチョウふぁんクラブに入会して下さいました。新しい普及の形で、より一層タンチョウ保護活動への理解が深まると感じています。

当日は快晴で、雪原の給餌場の眩しさがモニター上のレンジャーの表情からも伝わります。臨場感あふれるオンライン中継となりました。

オンライン探鳥会 参加者の感想

リアルなタンチョウに感動しました。レンジャーが質問にも丁寧に答えて下さり、タンチョウについてよく知ることができました。

2020年度も多くの皆様に タンチョウのことを伝えました

2020年度ネイチャーセンター来館者数　2654名

団体ツアー対応（7回）……61名
鶴居村立幌呂小学校中学年 総合的学習の時間 ……5名
鶴居村立下幌呂小学校（コーン寄贈式） ……40名
日本体育大学付属高等支援学校フィールド学習 …73名
鶴居村かんきょう会議　観察会 ……7名
日本野鳥の会 普及室主催オンライン探鳥会 ……39名